

令和7年3月17日（月曜日）

新市立高等学校設置特別委員会

議会会議室

出席委員

竹中隆一、蔭山敏明、白井義一、西本眞造、
山口 悟、石堂大輔、萩原唯典、大西陽介、
妻鹿幸二、牧野圭輔、金内義和、谷川真由美

開会

9時57分

教育委員会

9時57分

報告事項説明

・（仮称）姫路市立高等学校の内容について

質問

10時05分

（質問）

募集人数について、新設校では推薦入学120名、学力検査240名の合計360名を予定しているとのことだが、現在は市立3校合わせて推薦入学120名、学力検査560名の合計680名であり、320名減少することになる。生徒数の減少見込み等、募集人数の算出根拠について説明してもらいたい。

（答弁）

県全体の募集人数を調整する県教育委員会と協議し、少子化の状況に合わせられるよう、現在市立3校で合計17学級ある1学年の学級数を9学級とすることとした。

また、推薦入学については、制度上、単位制の場合は全体の50%まで募集することができるが、県全体から受検可能になるため、姫路市立であることも考慮し、現在の市立3校の合計である3学級120名と設定したものである。

（質問）

募集人数は県と調整した上で設定したのか。

（答弁）

そのとおりである。

（質問）

私は時間やお金をかけなくても通学できることを保障しなければならないと考えており、募集人数が320名減少することで、市内の高校に通うことができない本市の生徒が今以上に増えることを懸念している。これまで新設校の1学年当たりの学級数は8～10学級という説明だったが、なぜ9学級となったのか。せめて10学級とすることはできなかったのか。

（答弁）

単位制の場合は選択科目が多く、大きな学校になる中で、生徒がどのように科目を選択するのか、また、実際にどのような時間割になるのかをシミュレーションしながら進めているが、その中で、県内に実際に1学年当たり9学級で運営している高校があったことも理由の1つである。

また、1学年が1つのフロアにあることも学びの中では大切であると考えており、姫路高校の1つのフロアに配置できる学級数が最大で9学級であることも関係している。

その上で、確かな学びが全員にしっかりと行き届き、加えて多様性を実現していく上でバランスも踏まえ、総合的に勘案した結果である。

（質問）

1学年9学級とすることは市から示したのか、それとも県との調整の中で変更を行ったのかどちらなのか。

（答弁）

当初から本市が示したものである。

（質問）

推薦入学については現在の市立3校ではそれぞれ特色あるコースを設けているが、新設校ではどのようになるのか。

（答弁）

現在の市立3校では、推薦入学によるコースまたは専門学科が1学級であったことから、3年間クラス替えを行わずに学んでいたが、新設校は単位制となるため、学級の中に推薦入学と学力検査で入学した生徒が混在することになる。

新設校では総合的な探究の時間を増やし、全生徒に対して姫路高校の探究科学コースの実績を生かした探究を中心とした学びを集中的に行っていこうと考えている。

琴丘高校の国際文化科や飾磨高校の健康福祉コースの学びについても単位制の科目を選択する中で英語や福祉などの科目を取ることでそれぞれの適した学びができると考えている。

（質問）

推薦入学の試験は1つの枠組みで行われるのか。

（答弁）

そのとおりである。

(質問)

令和7年度高校入試における第4学区の全日制高校の平均倍率は1.04倍で、最後の入学となる市立高校では3校とも平均を上回る倍率となったが、教育委員会はどのように受け止めているのか。

(答弁)

心配していたが、定員を上回る応募があり安心して

いる。ただし、今後は後輩が入学せず、令和7年度入学者は3年生時には1学年しかいないという状況になるため、選んでくれた生徒や保護者が寂しい思いや不自由な思いをしないよう、3校の部活動や生徒会等様々な活動や交流を進め、教育活動を充実させたい。

(質問)

令和7年度高校入試では市立3校を第2志望とした受検者が合計478名いたが、第2志望でも不合格となる受検者は例年どれくらいいるのか。

(答弁)

確認を行い、後ほど回答したい。

(質問)

「姫路型」探究学習の展開として、小中学校から一貫通貫型の探究学習を進めるとのことだが、市外から入学した生徒にはどのように対応するのか。

(答弁)

市外の学校でも小中学校で総合的な学習は行っているため、本市での学びを軸にしながら他市から入学した生徒も一緒に学習していけるように工夫を行う。

(質問)

教育活動の特色として姫路市や大学、企業、地域など、多様なステークホルダーとの連携、協力体制を挙げているが、市立3校で既に行っている取組はあるのか。

また、新設校で力を入れていこうと考えている分野はあるのか。

(答弁)

姫路高校は探究学習、琴丘高校は国際文化及びグローバルをテーマに地域と海外をつないでいくということを行っている。飾磨高校は保育所への訪問を行ったり、福祉コースでは介護施設の方々を招いたりするなど地域とのつながりがとても大きい。

新設校では、本市の行政課題について一緒に取り組

んでいけるよう、具体的なプロジェクトを立ち上げるべく、政策局との調整を進めている。

また、大学との連携についても協議を進めており、時期が来れば説明したい。

(要望)

様々な機関と連携し、素晴らしい内容となるように頑張ってもらいたい。

(質問)

小中学校では教員の未配置が非常に問題になっており、市立高校でも未配置があるかと思う。単位制になり学びが多様化する中で、必要な教員を確保できる見通しは立っているのか。

(答弁)

令和6年度は市立高校で教員の欠員が1名出ており、令和7年度に向けて現在2名の教員を探している。新設校においては教育課程と教員のマッチングについて県教育委員会とも協議し、必要な人員を配置できるよう計画的に進めていきたい。

(質問)

新設校で取り組む教育内容にたけた教員を新たに配置する必要はあるのか。それとも、現在の市立3校の教員で対応できるのか。

(答弁)

市立3校においても多彩な内容の教育課程があるため、現員の教員で新設校の教育課程の実施は可能と考えている。また、さらなる専門性が必要になった場合には非常勤講師として会計年度任用職員を任用することで対応可能である。

(要望)

子どもたちが安心して学べるよう、教員の確保はきちんと行ってもらいたい。

(質問)

市立3校が1校に統合されることで教員が過剰になることはないのか。

(答弁)

退職者や県立高校への転出者等もあり、正規の教員が過剰にならないよう県教育委員会と協議中である。

(質問)

県立高校でも合併があり高校数が減少しているが大丈夫なのか。

(答弁)

県立高校でも教員不足があり、教員が過剰になるような状況ではないと聞いている。

(質問)

1学年当たり9学級で360名とのことだが、1学級当たり40名と考えてよいのか。

(答弁)

ホームルームは40名で行うが、単位制であるため実際にはそれより少人数での学習になると考えている。

(質問)

以前清元市長は令和12年までに手柄校区に新校舎を整備したいと発言していたが、実現可能なのか。

(答弁)

姫路高校の校地に仮設校舎を建設する予定で、仮設校舎の借受けに係る契約期間を令和6年度から14年度までと見込んでおり、その範囲内での整備を考えている。

(質問)

令和12年度までの整備の可否について確認したいが、不可能ということではよいのか。

(答弁)

令和14年度までの範囲ではあるが、具体的には令和7年度に着手する基本計画の策定作業の中で検討し、7年度に公表したいと考えており、現時点での答弁は差し控えたい。

(質問)

令和8年度に姫路高校の校地で新設校が開校され、令和14年度までに新校舎を建設するとなれば姫路高校の校地で学びを行えるという実績が5、6年できることになるが、新しい学校でのよい学びのために5.8ヘクタールに及ぶ市場跡地の全ての土地が必要と説明してきたことと矛盾するのではないのか。

(答弁)

1学年当たり9学級で人数もかなり多くなるため、部活動や体育の授業などが姫路高校の校地だけで実施できない場合も考えられることから、市の施設の利用などを含めた様々な調整を行っているが、厳しい部分もあるため、市場跡地全体の5.8ヘクタール全体を使用し、学校の特徴をより際立たせた内容へステップアップしたいと考えている。

(意見)

かなり昔ではあるが、1学年当たり10学級以上あつ

たときもあることから、「1学年当たり9学級だから」というのは違うと思う。

(質問)

市場から学校施設になることで地価や法規制等で周辺に影響を与えることはないのか。

(答弁)

風営法の規制などはあると思うが、具体的には基本計画を策定する中で検討する。

(質問)

学校が建設されると、宿泊施設の設置について旅館業法上の規制が伴うこととなるが、旅館業に係る組合や事業者からのクレームは受けていないのか。

(答弁)

現時点では受けていない。

(要望)

今後そのようなクレームがあれば市長部局と連携しながら丁寧に説明してもらいたい。

(質問)

新校舎の整備に当たり、市や民間事業者と一緒に活用する複合型施設とすることは可能なのか。

(答弁)

基本計画を策定する中で必要かどうかも含めて具体的に検討する。

(質問)

複合型施設にする場合、これまで学校用地として買収を行ってきたこととの整合性を欠くのではないのか。

(答弁)

もしも複合型施設にするのであれば市立高校の学びと何かつながりがあるなど、お互いに効果があると認められる場合である。

現時点では学校用地として施設全体が必要であると考えているが、今後具体的に一般利用や併合させたほうが良い状況になればそういった可能性もあるかと思う。

(質問)

複合型施設になった場合、地権者には納得してもらえるのか。

また、土地収用法に基づく土地収用は複合型施設の場合でも問題ないのか。

(答弁)

地権者との交渉は学校用地として進めており、複合型施設の検討は教育委員会では行っていない。

(委員長)

委員に尋ねるが、複合型施設について市当局や教育委員会が何か方向性を示しているのか。

(委員)

あくまで例えばの話である。

(質問)

入学者の受入れに関する方針として「自分の可能性を信じ、成長していこうとする意志を持っている生徒」を打ち出しているが、選考基準を姫路高校、琴丘高校及び飾磨高校のどこに合わせようと考えているのか。

(答弁)

どこかの学校に合わせるということは考えておらず、事前に示した教育課程から国公立大学の受験にも対応したカリキュラムであることや、内容を絞り込んだ科目選択もできるということが分かると思う。

そういったことが自身の希望する進路に沿っているかどうかという点を踏まえて受検するかどうかを判断されると考えている。

(質問)

受検して大丈夫かどうかは生徒にとって重要なことであると思うがどのように示していくのか。

(答弁)

中学校側が生徒に対してどのように話すかが重要になると考えている。

令和7年6月に中学校への説明会を予定しており、そのほかにも具体的な説明が必要であれば積極的に要望してほしいと伝えている。

個別に指導する中で、生徒の状況をしっかりと見ながら市立高校という選択肢を提示してもらいたいと考えている。

教育委員会中断

10時47分

【予算決算委員会新市立高等学校設置分科会の審査】

教育委員会再開

11時05分

(教育委員会発言)

第2志望での不合格者数について、学校ごとの公表は行っていない。第4学区全体では受検者数が2,988

人おり、合格者は2,916人いた。そのうち第1志望での合格者が2,738人、第2志望での合格者が178人であった。

閉会

11時06分